

＜大錦、小錦＞ビオトープの小径の脇、日当たりの良いところにオオニシキソウが 30cm ほどの高さに立ちあがって小さな花と若い実を付けています。茎を折ると白い乳液が出るトウダイグサの仲間です。“オオニシキ”があるのなら“コニシキ”は？と思われるでしょう。畑地や道端で踏まれても踏まれても頑張っているのがコニシキソウです。どちらも外来種で在来のものにニシキソウがあります。ここでお気づきとと思いますが、お相撲さんの大錦、小錦から連想してはいけなかったのです。また、“ニシキ”は“錦”でなく茎の赤と葉の緑の“2色(ニシキ)”のようです。



＜オオニシキソウ＞

＜稲穂の季節＞このところ田んぼの脇を歩いていると少し甘みのある稲の香が漂ってきます。花粉の匂いでしょうか。イネと同じくカヤツリグサの仲間も風媒花で、虫を惹きつけるための華やかな花弁を必要としません。下の写真は仲間の一つのカンエンガヤツリです。昔は筵(むしろ)を編むのにつかったようですがすっかり減ってしまったようで、ビオトープの池の畔にあるのは貴重です。



＜コニシキソウ＞

(カンエンガヤツリ) 名前は江戸時代末期の本草学者、岩崎灌園に由来するとのこと。朝鮮のワングル(草鞋や筵の材料)と同じで、渡り鳥が種を運んだ帰化植物らしい。絶滅危惧種。

水辺にはイグサの仲間のホソイも生えています。何とも変わった花の付き方ですね。とても小さな花ですが花弁のある、いわゆる普通の花です。



＜カンエンガヤツリ＞

＜鶏群の一鶴、掃き溜めに鶴＞今の時期、庭や畑ではアサガオ、カボチャ、ユウガオなどの花が色鮮やかに咲いているのですが、野の世界では上に紹介したように目立たないものが殆どです。ところが池では水面一杯に広がったヒルムシロとヒシに混じって丸い葉っぱの水草から白いレースの花弁に黄色のアクセントを施した花が咲き出しました。ガガブタと



いう水草で、
‘鏡蓋’と書きます。今、
人気の歌姫と
は関係なく、葉
の形が鏡のふたにたとえられたものです。



＜ホソイ＞

←＜ガガブタ＞

(文と写真) 松本正勝